

第1期中期目標期間 業務実績報告書

I 教育

① 教育内容の充実

1 対話型少人数教育(学習コモンズシステム)の導入・充実

期待する成果	自主的に学び成長する精神を身につけた地域に貢献できるすぐれた人材の育成
中期計画	よく聞きよく話し合う教育を目的とした学びの共同体を構築します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(H25～H29)を推進すべく、4つの学習コモンズ(観光創造・都市文化・コミュニティデザイン・地域経済)を設け、複数教員による少人数対話型ゼミを中心としたカリキュラムを段階的に導入した。 ・授業履修において学生の科目選択の幅を広げるなど、適宜制度の見直しを行った。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・コモンズ制による少人数対話型教育を、適宜見直しながら推進し、地域に貢献できる人材育成に取り組んだ。

◆評価指標 学生の成長度 入学時より能力が増えた4年生の割合(分析力や問題解決能力)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
分析力や問題解決能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	82.2%	85.7%	75.7%	82.2%	78.3%	78.6%	82.4%
コミュニケーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	82.2%	83.3%	72.8%	78.2%	74.3%	80.9%	82.5%
プレゼンテーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	74.0%	79.4%	66.0%	73.3%	75.6%	82.0%	82.4%

I - 1

I 教育

① 教育内容の充実

2 フィールドワークを通じた実践型教育の導入・充実

期待する成果	実践的な課題発見・解決能力を身につけた人材の育成
中期計画	平成26年度からの新カリキュラムにおいて必修化したフィールドワークを充実させます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの必修化により、現地に赴き、課題を発見し、思考・実践する授業を行った。 ・文部科学省「地(知)の拠点整備事業」を推進すべく、4つのコモンズがその特性に合わせて県内4自治体(奈良市、桜井市、宇陀市、明日香村)と連携し、PBL(課題解決型学習)に基づいたフィールドワークを全学的に実践した。 ・学生の主体性をより重視し、フィールドワークによる学びの質を向上させることを目標に新カリキュラムを開始した。 ・目標値を大きく上回る数の学生(6年間でのべ7,723人)がフィールドワークを実践した。なお、令和2年度は新型コロナウイルスの影響で実施件数が減少した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間でのべ7,723人がフィールドワークを行い、開始当初より実施数も約10倍になるなど、フィールドワークの充実に取り組んだ。

◆評価指標 実習件数、実習参加延べ学生数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
件数	指標	-	400件	800件	1,200件	1,200件	1,200件	1,200件
	実績	-	214件	948件	2,195件	2,200件	2,033件	133件
学生数	指標	-	400人	800人	1,200人	1,200人	1,200人	1,200人
	実績	-	214人	948人	2,195人	2,200人	2,033人	133人

I - 2

I 教育

① 教育内容の充実

3 リベラルアーツ教育の充実

期待する成果	社会人として必要不可欠な幅広い教養、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけた人材の育成
中期計画	学生の基礎学力や教養を培うためのリベラルアーツ教育を強化します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 継続的にリベラルアーツ科目の増設を行い、学生の選択肢を拡大した。 「教養講義Ⅱ（東アジアと日本）」や「教養講義Ⅹ（働くこととワークルール）」など、社会で活躍している外部講師を招いた講義を実施した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 6年間で科目数を約2倍にするなどリベラルアーツ教育を着実に強化した。

◆評価指標 リベラルアーツ科目数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
リベラルアーツ科目数	指標		19科目	20科目	20科目	21科目	21科目	22科目
	実績	19科目	21科目	25科目	26科目	32科目	36科目	37科目

I-3

I 教育

① 教育内容の充実

4 高度な語学教育の提供

期待する成果	海外留学や語学力を活用した就職など国際社会で活躍できる人材の育成
中期計画	コミュニケーション能力の向上に重点をおいた実践的な語学教育を提供します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 英語アドバンスト授業としてTOEFL、TOEIC対策や観光英語など学生のニーズに沿った語学教育を提供した。 昼休みの時間帯にe-caféを実施し、ネイティブ英語に親しむ機会を提供した。 英語スピーチコンテストを実施し、のべ24人が参加した。 TOEFL ITPの学内受験を実施し、新入生全員と成績上位者には受験料の補助を行った。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により学内受験を見合せた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> TOEFLiBT65点以上の学生の割合は横ばいとなっているが、海外語学研修や留学を希望する学生は増加傾向にあり、大学内での様々な取組、活動が学生のモチベーションとなっている。

◆評価指標 TOEFLiBT65点以上の学生が全学生に占める割合

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
TOEFLiBT65点以上の学生 が全学生に占める割合	指標		5%	8%	11%	14%	17%	20%
	実績	3%	3%	4%	3%	3%	3%	4%

TOEFLiBT65点に相当する点数: TOEIC600点、TOEFL CBT183点、TOEFL PBT513点

(参考)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
留学生 派遣数	長期留学	実績	6人	3人	2人	8人	10人	3人	-
	短期留学	実績	7人	13人	6人	10人	13人	27人	-
海外フィールドワーク参加学生数	実績	0人	12人	12人	38人	26人	30人	-	

I-4

I 教育

② 学生への支援

5 意欲ある学生の確保

期待する成果	大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を確保することによる学びの質の向上
中期計画	入試制度、学生支援制度、広報体制の改善・充実を図ります

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度入学生から、本学を第一志望とする学生を確保するために前期入試の募集定員を50名から65名に増やした。 県内及び近隣府県の高校を訪問し、教育内容のPRを行い、入学志願者の確保に努めた。なお、令和2年度新型コロナウイルスの影響により中止した。 オープンキャンパスでは、教員の研究紹介やキャリアに関する説明会、個別相談を実施し、令和元年度までの5年間で2,063組の参加があった。 令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受けたが、オープンキャンパスや個別相談会をオンラインで実施するなど、積極的な広報を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響等により、令和3年度入学の志願倍率は低下しているものの、それまでは主な取り組みの成果により高い水準で維持されている。

◆評価指標 大学PRのための高校への説明件数、入学志願倍率

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
高校への説明件数	指標		65件	68件	71件	74件	77件	80件
	実績	56件	71件	86件	77件	65件	53件	-
入学志願倍率	指標		8.8倍	9.1倍	9.3倍	9.5倍	9.8倍	10.0倍
	実績	8.6倍	8.2倍	7.7倍	7.1倍	9.2倍	9.4倍	6.6倍

I - 5

I 教育

② 学生への支援

6 教育内容の評価(教員の評価とカリキュラムの評価)

期待する成果	学生の授業に対する満足度の向上、教育内容のレベルアップ
中期計画	各科目内容の充実を図るため、教員の教育力や教育方法の継続的な改善・向上に努めます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 教員と学生それぞれが、より主体的に教育と学習の向上を担うべく、これまでの「授業アンケート」に代えて、教員「自己チェックシート」および学生「自己評価シート」を導入した。 各学期の終了時に、非常勤を含めた全教員が「自己チェックシート」を共有し、FD研修会において教育の質向上について検討し、教育内容の改善を図った。 授業履修において学生の科目選択の幅を広げるなど、適宜制度の見直しを行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教員による授業方法の自己チェックとFD研修会での共有などにより、教育内容の継続的な改善を図った。

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
教育内容に不満な学生の割合(学生による教育評価)	指標		18.5%	17.0%	15.5%	14.0%	12.0%	10.0%
	実績	19.8%	28.3%	35.9%	39.2%	23.6%	18.3%	17.0%

I 教育

② 学生への支援

7 学生のキャリアサポートの充実

期待する成果	高い就職率の維持、卒業後も含めた就職支援体制の確立
中期計画	卒業後のフォローアップも含めた就職支援体制を整備します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの受入先の拡充をはかり、学生の参加を促進した。 ・卒業生の就職先企業と連携した就職対策講座や、業界・業種研究会などを実施し、就業や就職活動への理解を促進した。 ・リカレント相談員の配置による卒業生への対応を実施した ・初年次からのキャリア教育の充実のため「キャリアデザイン I・II」の講義を開講した。 ・キャリア教育の充実のために、専任教員を採用した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年は新型コロナウイルスの影響を受けたが、全国平均並みの就職率を維持している。 ・専任教員を採用し、キャリア教育の充実を図った。

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
就職率	指標		全国平均より高い就職率を維持					
	実績	100%	97.7%	97.3%	94.4%	96.6%	97.1%	95.2%
就職サポートに不満な学生の割合	指標		23%	21%	19%	17%	15%	13%
	実績	25%	24%	23%	33%	19%	25%	21%
リカレント相談件数	指標		実施に向けて検討・準備					
	実績	実績なし	—	—	—	4件	4件	0件
企業訪問件数	指標		42件	44件	46件	48件	50件	50件
	実績	32件	10件	46件	51件	55件	60件	7件

I-7

I 教育

② 学生への支援

8 学生生活へのサポート

期待する成果	学生生活へのサポートを充実し、学生の利便性を向上させるとともに留年者及び中退者の減少を目指す
中期計画	メンタルヘルス相談等を充実し、中退率及び留年率の改善を図ります

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルカウンセリングを実施した。 ・教員が学生の質問を受けるオフィスアワーを実施した。 ・障害のある学生への支援に関わるガイドラインを作成した。 ・学務システムを導入し、学生がPC・スマートフォンからWeb上で履修登録や成績確認などが行えるようにした。 ・遠隔授業に対応するため、クラウド型教育支援サービスmanabaを導入した。 ・新型コロナウイルスの影響により、経済的に就学の継続に支障が生じる学生に対して、大学独自に「学生生活応援金」を支給した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活へのサポートの充実や、学生の利便性の向上により、中退率及び留年率が、法人化前よりも減少している。

◆評価指標 中退率及び留年率(やむを得ない事情によるものを除く)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
中退率	指標		0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.2%	0.0%
	実績	1.1%	0.5%	0.5%	0.9%	0.7%	0.6%	0.6%
留年率	指標		2.0%	1.6%	1.2%	0.8%	0.4%	0.0%
	実績	3.7%	3.8%	2.6%	2.2%	2.3%	2.8%	2.1%

I-8

I 教育

③ 教育を支える施設整備

9 学生の学習意欲及び教育効果の向上を図るキャンパス整備

期待する成果	教員と学生が共に学べるキャンパスの整備
中期計画	学生の学習環境を改善するための施設整備を図ります

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から地域交流棟の使用を開始した。 平成28年度に「施設整備基本計画」を策定した。 平成30年度に、地域交流棟にラーニングcommonsを整備した。 新たな教育施設としてcommons棟の整備を行い、令和2年度から使用を開始した。 令和4年に開校する附属高校との連携を見据え、令和2年度に「施設整備基本計画」の見直しを行った。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流棟やcommons棟の建設、ラーニングcommonsの整備などにより、学習環境の整備を推進した。

◆評価指標 施設整備構想の進捗状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
施設整備計画	指標			commons教室8室・学生会館・ラーニングcommons整備				
	実績	未整備	地域交流棟竣工	基本計画策定	commons棟基本設計	commons棟実施設計	commons棟建設	commons棟竣工

I - 9

I 教育

③ 教育を支える施設整備

10 図書館機能の充実・強化

期待する成果	高等教育機関及び地域の知の創造拠点として、地域創造学研究に資する蔵書を備え、地域住民に開かれたメディアセンターを整備
中期計画	図書館における地域創造学研究に資する蔵書の増加及び地域住民の利用を促進します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 6年間で1万冊超の蔵書が増加するなど、地域創造学研究に資する資料を充実し、利用の促進を図った。 ゼミや授業で積極的に図書館の利用を促したことにより、利用人数、貸出冊数も法人化前より増加した。なお、令和2年度は新型コロナウイルスの影響で遠隔授業となり、図書館の利用が激減したことにより、貸出冊数も減少した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書が充実したことに加え、貸出冊数が法人化前の約1.7倍となっており、図書館の利用が進んだ。

◆評価指標 蔵書数、図書館利用人数、図書館貸出冊数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
蔵書数	指標		104,600冊	107,500冊	110,400冊	113,300冊	116,200冊	119,100冊
	実績	107,360冊	109,432冊	111,017冊	112,788冊	114,140冊	114,869冊	118,017冊
図書館利用人数	指標		16,300人	17,300人	18,300人	19,300人	20,300人	21,300人
	実績	18,701人	18,966人	18,108人	19,184人	21,711人	18,934人	6,301人
図書館貸出冊数	指標		5,900冊	6,100冊	6,200冊	6,400冊	6,500冊	6,700冊
	実績	6,643冊	7,776冊	7,527冊	11,606冊	14,094冊	11,447冊	2,565冊

II 研究

1 研究の適切な成果評価

期待する成果	社会のニーズに対応した研究活動を通じて、広く社会に貢献する
中期計画	科学研究費補助金をはじめとする大学内外の助成金に採択される研究活動を行います

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 科学研究費補助金の積極的な獲得に努めた。 科学研究費補助金の採択者へのインセンティブ付与や共同研究員制度を導入するなど、研究支援を実施した。 研究支援を充実させるため、地域創造研究センターを設置した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 共同研究員制度の導入など、研究支援の成果が現れ、科学研究費補助金の採択件数が目標の2倍となった。 令和2年度に地域創造研究センターを設置し、外部の優秀な研究者とも共同研究を進めた。

◆評価指標 科学研究費補助金の採択件数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
科学研究費補助金の採択件数	指標		10件	10件	11件	11件	12件	12件
	実績	21件	25件	21件	16件	12件	16件	24件

II - 1

II 研究

2 課題解決に寄与する研究活動の推進

期待する成果	研究成果を社会に発表し、社会の問題解決に貢献する
中期計画	研究成果を著書、論文や学会発表、また各種報告書や寄稿などによって発表し、広く社会に貢献します。

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 研究成果を著書や論文として公表するとともに、学会発表を行った。 研究季報を発行するとともに、奈良県立大学リポジトリへの論文の登録を進め、研究成果を広く発信した。 奈良県立大学リポジトリ登録データのダウンロード数が約7倍増加して12万件を超えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 毎年堅実に論文発表、学会報告を行っており、リポジトリ登録データも増加した。

◆評価指標 学術論文相当、学会発表等件数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
学術論文相当	指標		33件	33件	33件	33件	33件	33件
	実績	37件	19件	18件	23件	35件	30件	33件
学会発表等	指標		33件	33件	33件	33件	33件	33件
	実績	88件	36件	23件	32件	38件	33件	25件

(参考)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
リポジトリ登録データ数※	実績	-	238件	361件	435件	1,490件	1,543件	1,593件

※地域創造データベース(H29以前)、奈良県立大学リポジトリ(H30以降)への登録件数

II - 2

II 研究

3 奈良とユーラシアに関する研究活動の推進

期待する成果	奈良とユーラシアに関する研究活動を推進するとともに、その研究成果を県民に還元する
中期計画	奈良とユーラシアに関する研究活動に取り組み、さらに発展させます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシア研究センター研究会を通じて、奈良とユーラシアに関する研究活動に取り組み、その研究成果を以下の取り組みを通じて県民に還元した。 ・講演会、セミナー、シンポジウムを5年間で10回実施した。 ・調査研究レポートを5年間で19篇発行した。 ・情報誌『EURO-NARASIA Q』を6年間で18号発行した。 ・これまでの研究成果を題材にし、リベラルアーツ科目として「教養講義Ⅷ(奈良文化コンテンツ論)」「教養講義Ⅸ(奈良文化イメージ論)」を開講した。 	A	・奈良とユーラシアに関する研究活動を着実に実施し、成果を積極的に公表した。

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
研究成果に関する講演会、セミナー、シンポジウムの実施回数	指標		2回	2回	2回	2回	2回	2回
	実績	未実施	1回	2回	2回	3回	2回	-

II-3

III 地域貢献

① 教育関連

1 幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成

期待する成果	社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成
中期計画	社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材を継続的に育成します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・入学時から、キャリア形成の意識付けから就職活動までを包括的に支援する体制を整備した。 ・専任教員を採用し、1、2年生対象の「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」の講義を実施した。 ・3年生対象の「キャリア形成講座・就職対策講座」等において、卒業生の就職先企業の社員、自治体職員を外部講師として招聘し、「社会のニーズ」を直接聞く機会を設けた。 	A	・キャリア教育体制の整備により、社会のニーズに応じた幅広い知識と実践力を持つ優れた人材の育成を行った。

◆評価指標 学生の成長度 入学時より能力が増えた4年生の割合(分析力や問題解決能力)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
分析力や問題解決能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	82.2%	85.7%	75.7%	82.2%	78.3%	78.6%	82.4%
コミュニケーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	82.2%	83.3%	72.8%	78.2%	74.3%	80.9%	82.5%
プレゼンテーションの能力	指標		82.5%	84.0%	85.5%	87.0%	88.5%	90.0%
	実績	74.0%	79.4%	66.0%	73.3%	75.6%	82.0%	82.4%

Ⅲ 地域貢献

① 教育関連

2 奈良の魅力为全国に発信できる人材の育成

期待する成果	県内外で就職した学生が大学での学びを生かして、奈良の魅力为全国に発信する
中期計画	奈良の魅力を学生に伝える教育を実施し、奈良の魅力为全国に発信できる人材を育成します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「地(知)の拠点整備事業」を推進すべく、4つのコモンズがその特性に合わせて県内4自治体と連携し、学生がコモンズゼミを通じて地域資源の再発見に取り組んだ。 ・「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(H28～R1)における「働くナラ・プロジェクト」により、県内就職者の増加に努めた。 ・「奈良」を直接的に題材とする科目として、「やまとまほろば学」「文学(奈良と文学)」「教養講義Ⅷ(奈良文化コンテンツ論)」「教養講義Ⅸ(奈良文化イメージ論)」を開講した。また令和3年度から特任教授を採用し「奈良と仏像」の開講を決定した。 ・奈良県内における学生の学びのフィールドを継続的に拡充し、204件の受入先を確保した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良を題材とする科目の開講やフィールドワークの実施を通して、奈良の魅力や課題を他者に伝えることができる人材を育成した。

◆評価指標 奈良に関する教育科目に不満な学生の割合(学生による教育評価)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
奈良に関する教育科目に不満な学生の割合(学生による教育評価)	指標		5.5%	5.0%	4.5%	4.0%	3.5%	3.0%
	実績	6.2%	5.4%	4.8%	6.3%	11.3%	12.8%	10.7%

Ⅲ-2

Ⅲ 地域貢献

① 教育関連

3 地域の学校(大学・高等学校)間の連携による地域貢献

期待する成果	地域の学校間の連携を通じて、大学の使命である地域づくりへの貢献を実現する
中期計画	他大学、高等学校など地域の学校間の連携を強化します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・高大連携事業について、本学の学生も加わったワークショップや実地研修の実施、高校生の研究計画から調査、分析、発表、公表に至るまでの学びを支援するなど、6年間で25回行った。 ・教員紹介や出前講義案内をまとめたシーズ集「教員データベース」を発刊し、県内の全高校に配布し広報に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・着実に高大連携事業を実施した。

◆評価指標 高大連携事業による実施校数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
高大連携事業による実施校数	指標		3校	3校	3校	4校	4校	4校
	実績	3校	3校	3校	3校	5校	4校	3校

Ⅲ-3

Ⅲ 地域貢献

① 教育関連

4 県民に対する生涯学習の機会の提供

期待する成果	大学の資源を活用して、県民への生涯学習の機会を充実する
中期計画	県民(市民)講座の開催回数の増加を図るほか、地域交流センターを活用した各種セミナーの実施等により県民に対する生涯学習の機会の提供に努めます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・県民のニーズに応じた出前講義を6年間で51回実施し、3,508人が受講した。 ・県民講座を6年間で12回開催し、1,049人が受講した。 ・奈良県立大学シニアカレッジを実施し5年間で81講座開設し、4,625人が受講した。 ・令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、県民講座および奈良県立大学シニアカレッジを中止した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・出前講義や奈良県立大学シニアカレッジについては、目標を大きく上回る規模で実施した。

◆評価指標 県民に対する生涯学習の機会の提供

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
県民(市民)講座開催回数	指標		年2回	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回
	実績	年2回	年2回	年2回	年3回	年3回	年2回	-
県民(市民)講座受講者数	指標		200人	210人	220人	230人	240人	250人
	実績	30人	115人	209人	157人	418人	150人	-
出前講座開催回数	指標		6回	6回	7回	7回	8回	8回
	実績	3回	6回	7回	9回	9回	15回	5回
出前講座受講者数	指標		260人	280人	300人	320人	340人	360人
	実績	126人	510人	347人	569人	448人	1,168人	466人
シニアカレッジ受講者数	指標		600人	600人	600人	600人	600人	600人
	実績	492人	647人	811人	817人	1,016人	1,334人	-

Ⅲ-4

Ⅲ 地域貢献

① 教育関連

5 社会人の学び直しの機会の提供

期待する成果	社会人に大学での学び直す機会を提供し、最新の研究成果を社会で役立ててもらう
中期計画	県民(市民)講座等の提供だけでなく、社会人が大学で学び直す機会を提供するためフレックス(夜間)コースの開設を検討します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・フレックス(夜間)コースによる学び直しについては、今後設置する大学院や新学部も含めて検討する方針を決定した。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人の学び直しの機会の提供については、大学院や新学部など、新たな教育研究組織の設置と合わせて検討していくこととした。

◆評価指標 フレックス(夜間)コースの検討状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
フレックス(夜間)コースの設置の検討	指標			フレックス(夜間)コースの検討		基本方針決定	着手	
	実績	-	情報収集	検討	検討	検討	方針決定	-

Ⅲ-5

Ⅲ 地域貢献

② 研究関連

6 地域創造データベースの構築、活用及び提供

期待する成果	研究成果をデータベース化し、地域で役立つ知恵と情報を発信する
中期計画	地域創造データベースを構築・稼働し、映像メディア等を活用します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域創造データベース」および「奈良県立大学リポジトリ」へ論文等を登録し、広く情報を公開した。 ・登録データ件数が増加し、平成30年度以降はCiNii Articlesとシステム連携しオープンアクセス化したことにより、奈良県立大学リポジトリ登録データのダウンロード数が約7倍増加して12万件を超えた。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・データベース登録数およびダウンロード数が大幅に増加し、研究成果の発信、利用が進んだ。

◆評価指標 オンラインデータ数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
		オンラインデータ数※	指標		80件	140件	200件	270件
	実績	-	238件	361件	435件	1,490件	1,543件	1,593件

※地域創造データベース(H29以前)、奈良県立大学リポジトリ(H30以降)への登録件数

Ⅲ-6

Ⅲ 地域貢献

② 研究関連

7 大学・地域の協働による課題解決型プロジェクトの推進

期待する成果	市町村等地域との協働を推進して、地域コミュニティの中核的存在として相応しい機能を備えた大学となる
中期計画	大学の資源を活用して、市町村・地域団体・企業・NPO等との協働による課題解決型プロジェクトを推進します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・市町村・地域団体・企業・NPO等との協働プロジェクトを推進した。 ・市町村・県内企業との連携協定が6年間で12件増加した。 ・教員紹介や出前講義案内をまとめたシーズ集「教員データベース」を発刊し、関係各所に配布した。 ・研究推進と地域貢献とのマッチングを強化するため地域創造研究センターを開設した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協働プロジェクトを推進した。

◆評価指標 協働プロジェクトの取組実績

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
		協働プロジェクトの取組実績	指標		15件	17件	19件	21件
	実績	9件	43件	44件	38件	25件	29件	21件

Ⅲ-7

Ⅲ 地域貢献

② 研究関連

8 研究成果等の地域への還元

期待する成果	地域づくりに貢献できる研究テーマを継続的に追求し、研究成果等を地域に還元する場をつくる
中期計画	地域づくりに貢献できる研究を支援し、一般県民を含む研究会・シンポジウムの開催等を通じて研究成果等を地域に還元します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・県民講座や研究会、シンポジウム等を6年間で290回開催し、16,649人が参加した。 ・地域創造研究センターがフォーラム「コロナ禍における奈良県経済の課題と展望」を開催した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会・シンポジウムを積極的に実施し、県民を含め多くの人に研究成果等を伝えてきた。

◆評価指標 研究会・シンポジウム開催回数、参加者数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
開催回数	指標		13件	13件	13件	13件	13件	13件
	実績	月1回以下	47件	58件	54件	70件	44件	17件
参加者数	指標		150人	150人	150人	150人	150人	150人
	実績	約10人～15人	2,325人	3,510人	2,199人	4,270人	3,300人	1,045人

Ⅲ-8

Ⅲ 地域貢献

③ 地域交流関連

9 学生の地域貢献

期待する成果	学生が大学での研究活動等を通じて地域に貢献する
中期計画	学生がフィールドワーク等を通じて地域に貢献できるよう支援体制を整えます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省「地(知)の拠点整備事業を推進すべく、4つのコモンズがその特性に合わせて県内4自治体と連携し、学生がコモンズゼミを通じて地域資源の再発見に取り組んだ。 ・地域における学びのフィールドの拡充、学生の問題関心とフィールドとのマッチング、学生の研究成果の地域団体等との共有の機会確保など、学生の地域における研究活動に対する支援の充実を図った。 ・令和2年度は新型コロナウイルスの影響で地域活動等への参加者が減少した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク参加など、地域で活動する学生数が増加した。

◆評価指標 学生の地域貢献活動参加数(学生アンケートによる)(例:地域行事への参加数、ボランティアへの参加数)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
学生の地域貢献活動参加数	指標		延べ150人	延べ300人	延べ450人	延べ600人	延べ600人	延べ600人
	実績	延べ131人	235人	225人	239人	195人	205人	53人

(参考)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
フィールドワーク参加学生数	実績		214人	948人	2,195人	2,200人	2,033人	133人

Ⅲ-9

Ⅲ 地域貢献

③ 地域交流関連

10 奈良県のニーズに対応した地域貢献活動

期待する成果	大学と地域が連携を強化し、地域のニーズに対応した課題解決に取り組む
中期計画	大学として県内の自治体、地域団体、企業、NPO等と連携して研究会・シンポジウム等を開催します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 研究推進と地域貢献とのマッチングを強化する機能を有した地域創造研究センターを開設した。 地域創造研究センターがフォーラム「コロナ禍における奈良県経済の課題と展望」を開催した。 文化庁「大学における文化芸術推進事業」により実践型アートマネジメント人材育成プログラム「CHISOU」を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域創造研究センターを設置し、フォーラムや実践型人材育成プログラムを実施した。

◆評価指標 県内の自治体、地域団体、NPO等連携協定数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
県内の自治体、地域団体、NPO等連携協定数	指標		18件	19件	20件	21件	22件	23件
	実績	17件	21件	22件	27件	29件	29件	29件

Ⅲ－10

Ⅲ 地域貢献

③ 地域交流関連

11 地域交流拠点の活用(協働サロン等)

期待する成果	地域交流拠点を活用して、地域における課題に取り組む
中期計画	平成25年度に設置した協働サロン及び地域サテライトを継続的に活用することにより地域との交流を活性化します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 協働サロン及び地域サテライトを活用し、地域との協働プロジェクトの推進を図った。 協働サロンおよびこれを活用した事業について、大学ホームページやSNS等により積極的な広報に努めた。 地域サテライトは平成29年度に桜井市へ移管された。 令和2年度は新型コロナウイルスの影響で学外者の構内立入を制限した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 協働サロンの利用が進むなど、地域との協働の機会が増加した。

◆評価指標 協働サロン利用状況、地域サテライト利用状況(延べ人数)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
協働サロン	指標		150人	210人	270人	330人	390人	450人
	実績	804人	706人	975人	682人	995人	650人	128人
地域サテライト	指標		60人	70人	90人	110人	130人	150人
	実績	330人	144人	97人	70人	—	—	—

Ⅲ－11

Ⅲ 地域貢献

③ 地域交流関連

12 地域に開かれたキャンパスづくり(施設の開放)

期待する成果	地域交流のできる施設の整備及び県民への開放
中期計画	地域との交流を図る施設の整備(地域交流棟の整備、図書館・体育館の改築)を推進し、県民への開放に努めます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度から地域交流棟の使用を開始し、シニアカレッジなど県民に学習機会を提供した。 県民講座、シニアカレッジ、ユーラシア研究センターフォーラム、東アジア・サマースクールなどの各種イベント情報について大学ホームページ等による広報を行い、県民の参加を呼びかけた。 地域交流棟の1階フロアに県産材を使用した家具を設置するとともに、屋上を改修し緑化をはかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 協働サロンは目標を上回る利用があるなど、学外者の利用が進んだ。

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
図書館利用者数(学外者)	指標		2,150人	2,220人	2,290人	2,360人	2,430人	2,500人
	実績	2,374人	2,060人	2,007人	2,104人	2,382人	1,299人	-
県民(市民)講座受講者数	指標		150人	210人	220人	230人	240人	250人
	実績	30人	115人	209人	157人	418人	150人	-
協働サロン利用者数	指標		150人	210人	270人	330人	390人	450人
	実績	804人	706人	975人	682人	995人	650人	128人
地域サテライト利用者数	指標		60人	70人	90人	110人	130人	150人
	実績	330人	144人	97人	70人	-	-	-

Ⅲ-12

Ⅳ 国際交流

1 学生の国際交流

期待する成果	学生レベルの国際交流を充実する
中期計画	海外大学からの留学生の受け入れ及び本学学生の海外大学への派遣の増加に努め、学生レベルの国際交流を充実します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 海外大学との学術交流協定先が、6年間で11校増加した。 長期の受入留学生30人に対し民間住宅を借り上げ家賃補助を行った。 海外協定校への派遣留学生38人に対し費用助成を実施した。 留学支援の充実により、6年間で95人を派遣した。なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外語学研修・長期留学の受入および派遣を停止した。 東アジア・サマースクールを実施し、5年間で国内外から205人が参加した。 	S	<ul style="list-style-type: none"> 留学支援の充実等により、留学の受入・派遣ともに目標を上回っている。 海外フィールドワークに参加する学生も目標を大きく上回っている。

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
留学生受入数	長期留学	指標		4人	4人	4人	6人	6人	6人
		実績	5人	5人	5人	5人	7人	6人	1人
	短期留学	指標		5人	5人	5人	5人	5人	5人
		実績	0人	0人	14人	17人	18人	16人	-
留学生派遣数	長期留学	指標		2人	2人	2人	3人	3人	3人
		実績	6人	3人	2人	8人	10人	3人	-
	短期留学	指標		7人	8人	9人	10人	11人	12人
		実績	7人	13人	6人	10人	13人	27人	-
海外フィールドワーク参加学生数	指標		8人	8人	8人	8人	9人	9人	
	実績	0人	12人	12人	38人	26人	30人	-	

Ⅳ-1

IV 国際交流

2 教員の国際交流

期待する成果	大学教員と海外の研究者との交流による研究水準の向上
中期計画	海外大学との共同研究、共同発表、シンポジウム等を開催し、海外の研究者との交流を深めます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・海外の有識者を招聘するなどして共同研究やシンポジウムを6年間で34回開催した。 ・R2は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、海外からの招聘ができなかったが、オンラインでシンガポールの大学と連携した海外セミナーを実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年度共同研究・シンポジウム等を実施することにより、海外研究者との交流を進めた。

◆評価指標 共同研究・発表・シンポジウム・共同発表開催数

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
共同研究・発表・シンポジウム・共同発表開催数	指標		2回	2回	2回	2回	2回	2回
	実績	4回	6回	6回	8回	9回	4回	1回

IV-2

IV 国際交流

3 国際交流組織体制の整備

期待する成果	海外大学との連携を深め、教育及び学術研究の交流を図る
中期計画	連携協定等の締結等海外大学との連携を深めるための基盤を整備します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・海外大学との学術交流協定先が、6年間で11校増加した。 ・海外の有識者を招聘するなどして、国際セミナーを6年間で8回開催した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・海外大学との学術交流協定の締結を進め、連携を深める基盤整備を進めた。

◆評価指標 連携協定締結校数(累計)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
連携協定締結校数(累計)	指標		8校	8校	9校	9校	10校	10校
	実績	7校	9校	12校	15校	17校	17校	18校

IV-3

V 法人運営

①組織運営と人事管理の改革

1 ガバナンス体制の充実強化

期待する成果	理事長と学長がリーダーシップを発揮し、効率的な法人運営を図る
中期計画	法人及び大学のガバナンス体制を充実強化し、理事長及び学長がリーダーシップを発揮できる環境を整備します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 法人の重要事項について理事会、経営審議会及び教育研究審議会を定期的を開催して審議するとともに、効率的な法人運営を行った。 大学の重要事項について、運営調整会議を定期に開催して審議するとともに、効率的な大学運営を行った。 	A	・理事長及び学長が連携し、適切な法人運営を行っている。

◆評価指標 外部評価結果

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
外部評価結果	指標	-	中期目標期間を通じて高い評価結果を維持					
	実績		概ね順調	概ね順調	概ね順調	順調	概ね順調	

V-1

V 法人運営

①組織運営と人事管理の改革

2 同窓会・後援会との連携

期待する成果	卒業生や保護者の大学の活動への理解を深め、協力を得る
中期計画	同窓会・後援会との連携・交流を強化し、卒業生・保護者が母校愛をもって本学の活動に協力していただける体制づくりに努めます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> 同窓会役員会にて、役員と大学教職員が意見交換を行い、同窓会の関東支部の設立や若手の同窓会員にも積極的に参加してもらう体制をつくることとした。また、同窓会の総会を大学祭当日に開催するなど、在校生との交流も図った。 後援会役員会にて、後援会予算の執行などについて役員と大学教職員が意見交換を行った。 	A	・同窓会・後援会との定期的な意見交換により、協力体制を築いた。

◆評価指標 本学に不満な保護者の割合(保護者アンケート)

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
本学に不満な保護者の割合(保護者アンケート)	指標		15%	14%	13%	11%	9.5%	8%
	実績	16%	13%	9%	10%	21%	6%	14%

V-2

V 法人運営

①組織運営と人事管理の改革

3 コンプライアンスの確保

期待する成果	公立大学法人としてコンプライアンスの向上を図る
中期計画	コンプライアンスの向上を図りアカウンタビリティを確保するよう組織体制を整えます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金の不正防止及び内部監査のためのコンプライアンス担当部署の体制を整備した。 ・セクシュアル・ハラスメントやアカデミック・ハラスメントなど人権侵害を含むコンプライアンス担当部署の体制を整備した。 ・内部監査室を設置し、法人の監事とも連携し、会計監査および業務監査を実施した。 	A	・コンプライアンス担当組織および規程を整備した。

◆評価指標 コンプライアンス担当組織の整備状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
コンプライアンス担当組織の整備状況	指標		法人組織において必要なコンプライアンス担当組織を整備						
	実績	一部整備	整備済	整備済	整備済	整備済	整備済	整備済	

V-3

V 法人運営

①組織運営と人事管理の改革

4 危機管理体制の整備

期待する成果	公立大学法人として必要な危機管理体制の整備を図る
中期計画	危機管理に関する計画の策定、体制の整備を行います

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理室を設置した。 ・火災訓練、防災訓練を実施した。 ・新型コロナウイルス対策については、令和2年4月に奈良県立大学の「行動基準」を定め、感染状況に応じ適宜改正のうえ対応した。 	A	・危機管理体制を整備し、危機管理マニュアルを作成した。

◆評価指標 危機管理体制の整備状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
危機管理体制の整備状況	指標		法人組織において必要な危機管理体制を整備						
	実績	未整備	未整備	整備着手	対応策策定中	整備済	整備済	整備済	

V-4

V 法人運営
 ②健全な財務の構築と維持
 5 収入の確保

期待する成果	中期目標期間中の安定的な財務状況の維持
中期計画	県からの運営費交付金に加えて外部からの受託事業等独自財源による収入を確保します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金および市町村等からの受託事業など、6年間で61,860千円の独自財源の確保に努めた。 ・文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」および文化庁「大学における文化芸術推進事業」により6年間で110,960千円の補助金を活用した事業に取り組んだ。 	A	・独自財源の確保に努めた。

◆評価指標 繰越金の額

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
繰越金の額	指標	中期目標期間を通じて繰越金の額がプラスの状態を維持						
	実績	法人化前	19,835千円	58,142千円	38,293千円	11,768千円	30,329千円	93,303千円

V-5

V 法人運営
 ②健全な財務の構築と維持
 6 経費の節減

期待する成果	中期目標期間中の安定的な財務状況の維持
中期計画	人件費等諸経費の節減、抑制に努めます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
<ul style="list-style-type: none"> ・理事会、経営審議会を開催し、決算・予算等を審議し、方針決定を行った。 ・働き方改革を進め、超過勤務の抑制などに取り組んだ。 	A	・安定的な財務状況を維持した。

◆評価指標 繰越金の額

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
繰越金の額	指標	中期目標期間を通じて繰越金の額がプラスの状態を維持						
	実績	法人化前	19,835千円	58,142千円	38,293千円	11,768千円	30,329千円	93,303千円

V-6

V 法人運営
 ②健全な財務の構築と維持
 7 業務の効率化

期待する成果	効率的・効果的な大学経営に努める
中期計画	各種システムの導入やアウトソーシングを積極的に推進して業務の効率化に努めます

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
・人事給与システム、財務会計システム、事務系基盤システム、旅費システム及び学務システムを導入・運用し、法人業務の効率化を図った。	A	・各種システムを導入するとともに、定期的に業務の見直しを行い、効率化を図った。

◆評価指標 業務効率化の取組状況

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
業務効率化の取組状況	指標		定期的に業務の見直し、効率化を実施					
	実績	システム導入準備	一部を除いて導入済			教務システム導入	導入済	導入済

V-7

V 法人運営
 ③法人の自己点検・評価及び情報公開の推進
 8 法人の自己点検・評価

期待する成果	県民に信頼される法人運営を行う
中期計画	定期的に自己点検・評価を実施するとともに、平成29年度に大学機関別認証評価を受審します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
・奈良県公立大学法人奈良県立大学評価委員会においても「中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる」と評価された。 ・年度計画について、自己評価を実施して公表しているほか、中間実績をとりまとめ、下半期の法人運営や、翌年度の年度計画の策定等に活用した。 ・大学機関別認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしている」と評価された。	A	・毎年自己点検・評価を実施し公表した。 ・平成29年度に認証評価を受審し、「大学評価基準を満たしている」と評価された。

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
自己点検・評価の実施状況	指標		定期的に自己点検・評価を実施					
	実績	-	H28年度実施	H29年度実施	H30年度実施	H31年度実施	R2年度実施	(R3年度実施)

V-8

V 法人運営

③法人の自己点検・評価及び情報公開の推進

9 法人情報の公開の推進

期待する成果	県民に信頼される法人運営を行う
中期計画	法人ホームページ等を通じて積極的に法人の情報を発信します

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
・ホームページの内容を定期的に見直し、法定公表情報以外の情報(法人が制定する各種規程等)についても積極的に掲載した。	A	・法定公表情報および法人が定める規程等を随時更新した。

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
情報公開の状況	指標		ホームページにおいて公表する情報を充実					
	実績	-	-	公表	公表	公表	公表	公表

V-9

V 法人運営

③法人の自己点検・評価及び情報公開の推進

10 情報発信体制の強化

期待する成果	大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上
中期計画	積極的な情報戦略を展開して、大学の認知度の向上、ブランドイメージの向上を図ります

【法人の自己評価】

中期目標期間の業務の実績	評価	評価の理由
・大学の広報誌として「コモンズ」「Campus Journal」「Narapu」を6年間で計17号を発行し、学生の取組をはじめとする教育成果や教員の研究成果など、大学の活動を発信した。 ・HPやメディアへの積極的な情報提供により、大学の認知度の向上を図った。	A	・積極的な広報等によりメディア掲載件数が増加した。

◆評価指標

項目		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
メディア掲載件数	指標		55件	56件	57件	58件	59件	60件
	実績	52件	73件	78件	82件	76件	80件	83件